

## アントクメ養殖研修会の開催

アントクメはコンブ目カジメ科に属する1属1種の一年生種で、コンブ目では日本沿岸において最も低緯度に分布している海藻です(写真1)。葉状部は、笹の葉形、長楕円形、卵形など様々で、葉面には皺や膨らみや白い斑が見られます。葉状部の大きさは葉長60~100cm、葉幅40~60cmにもなります。このア



写真1 天然のアントクメ

ントクメは西伊豆地区では「しわめ」や「とんとんめ」と呼ばれて、乾燥させて豆などと一緒に煮ものにしたたり、メカブの様に一度湯に通して包丁で叩いたりして食されています。以前は漁港の岸壁にもびっしりと邪魔になるほど着生していましたが、近年は着生量が減っています。そのような状況を受けて、西伊豆地区の漁業者からアントクメを安定的に供給するために養殖をしたいとの要望があり、6月18日に伊豆漁協西伊豆統括支所で土肥、田子、仁科、松崎の漁業関係者を対象にアントクメ養殖研修会を開催しました(写真2)。

研修会では、アントクメの生活環とワカメ養殖を参考にしたアントクメの養殖方法について説明しました。養殖のスケジュールとしてはアントクメに子嚢斑が出現する7~9月に母藻を採取し、遊走子を放出させて糸に付着させて種糸を作成します。作成した種糸は、陸上水槽で水温等を管理し、12~1月に幼芽が肉眼で確認できるようになったら沖だしします。葉状体が大きくなる4~5月に収穫となります。最近ではアントクメの着生量が極めて少なく、種糸を作るため

に必要な母藻が確保できるかが大きな課題になってきます。今後は母藻を確保し、種糸を作成していく予定です。



写真 2 研修会の様子

(橋詰悠斗)